歴史民俗資料館　企画展

昭和100年 プレイバック！ 昭和の池田

歴史民俗資料館では、昭和元（1926）年から起算して満100年を迎えるのに合わせ、5月30日から昭和期の本市の様子やまちの移り変わりについて紹介する企画展を開催しています。本ページでは展示の内容の一部を紹介します。

池田市誕生！

現在の本市はかつて、池田町・細河村・秦野村・北豊島村の1町3村に分かれていました（明治22年から）。しかし、昭和のはじめ頃から全国で市町村合併が行われるようになり、本市も昭和10（1935）年に1町3村が合併して新たな池田町が誕生しました。これにより、市制の要件の1つである人口3万人が達成されました。一方、日本は昭和12（1937）年に日中戦争が勃発し、翌年には国家総動員法が出されるなど、戦争の道を突き進んでいました。そんな中、昭和14（1939）年4月29日に市制が施行され、本市が誕生します。

武田市長と「住んで得のゆく池田」

昭和20（1945）年8月、長く続いた戦争の時代が終わり、全国で復興施策が進められました。他の大都市と比べ空襲の被害が少なかった本市では、初の公選市長として当選した武田義三のもと戦後の施策が進められました。初期の武田市政で特徴的な施策の1つが、失業者対策事業として始まった五月山の開発です。失業者対策事業は増加した失業者らの生活安定を図って公的事業で失業者を雇い、その事業に対して国が補助をするというものでした。また、昭和30年以後、日本は高度経済成長期に入り、本市においても人口が増加、五月ヶ丘や緑ヶ丘などの団地が造成され、かつての農村風景は徐々に少なくなりました。

▲開発直後の五月ヶ丘団地（秘書広報課蔵）

武田市長はこれらの開発事業だけでなく、「住んで得のゆく池田」を合言葉に、敬老年金の創設や下水道の整備など、市民の豊かな生活を安定させるための施策を推し進めました。

市広報 第292号（全国下水道促進デー特集）昭和45年9月10日

成熟都市へ

武田市長の後を継いだ若生正市長が初当選を果たした昭和50（1975）年に、本市は人口10万人を達成し、以後人口は安定、成熟都市としての歩みを進め始めました。若生市長は池田駅前の再開発事業に取り組み、昭和60（1985）年、池田駅の高架化が完了しました。また、コミュニティ・文化施策を重視した若生市政下で、歴史民俗資料館などの文化施設も開設されました。戦後、日本は高度経済成長期に経済・商業など多方面で大きく発展しました。昭和63（1988）年に1人当たりのGNP（国民総生産）世界一を記録した翌年、昭和の時代は終焉を迎えます。

これからの池田市をつくるのは？

現在、本市は第7次総合計画に基づいてまちづくりを進めています。同計画のキャッチフレーズは〝「だったらいいな」を叶えるいけだ〟です。また、同計画の基本的な考え方の一つに「みんなで取り組むまちづくり」を掲げています。

武田市長の「だったらいいな」が、「住んで得のゆく池田」だったのかもしれません。では、皆さんはこれからの池田はどんな「だったらいいな」と思いますか。また、そんな「だったらいいな」を叶えるには一体どんな取り組みが必要なのでしょうか。

今回掲載した資料は展示の一部です。この企画展が昭和期の池田のまちについて思いをはせ、これからのまちづくりについて考えるきっかけとなれば幸いです。

16ページに展示案内を掲載しています。併せてご覧ください。

◆問合 歴史民俗資料館 ☎751・3019